

「国語の授業を楽しく」

令和6年度
No.3号
7月4日

「わからんベース」の授業展開

子どもたち全員が同じ方法（作戦）で問いと向き合う必要はない。

今回の単元であれば、事例の補足、書き換え、アンケートの実施など。

子どもたちが批評的に本文を読む

⇒なんでこんな書き方にするのか？

「わからない」から「わかる」ための手立てを体験することにつながる。

「対話ベース」のコミュニケーション

子どもたちがわからないを表明し対話するためには、

6年間を見通した系統性が大切。

低学年：「すごい・たいへん・かしこい」などの情的反応を言語化する。「見つける・数える・探す」

中学年：なんでだろう？ ほかには？ 言語化

筆者の書きぶりをふりかえる活動を多く取り

入れる。

高学年：わからない・もやっとをベースとする。

もっとわかるためには？筆者は本当に正しいのか？

○言語活動の設定 参考

・小学生「夢をかなえる」作文コンクール

・小学生新聞コンクール

・手紙作文コンクール（はがき作文部門 絵手紙部門）

・SDG s 川柳コンクール

・感動作文コンクール

・りんり俳句大賞

・「住みよい地球」全国小学生作文コンクール

言語活動を行う際に募集のある取組みを設定してみても、子どもたちの意欲向上につながることもあります。募集作品では「相手意識」をもって表現することが重要になるので、意識づけにも効果的です。多くが9月末までの締め切りになっています。興味があればお声がけください。

学習に取り組み、参加賞もゲット、もしかすると大賞に！

一学期4学年の研究授業お疲れさまでした。昨年度からの積み上げのもと、今年度の研究テーマである「一緒に考え、一緒に学ぶ」にそった授業を、今後も取り組んでいきましょう。

○11月学校公開に向けて

8月28日(水)に府教センター指導主事の先生も交えて、指導案検討会を行います。そこで夏休みの間にじっくりと単元を考えられるように、7月24日(水)に国語授業づくり推進委員会を行います。現状での単元構成案を持ち寄り、共有することで、学校全体での方向を確認していきます。また、指導案の書き方や評価についても今一度確認していきます。授業者の先生を中心に行いますが、学年での参加もお持ちしています。

正木先生の助言より

問いづくり

子どもたちの「わからない」「もやっと」を大切に単元をデザインする。

①わからないを表明することはOK

わかったつもりにならず、わからないことを認める。

②わかるために何が必要か＝作戦会議

見方・考え方（わかるための武器、アイテム、攻略本）を働かせて、どう取り組めばよいか。

だからといって、子どもたちで考えたことだから何でもOKではなく、単元の目標、つけさせる力に導くことを忘れない。

自立した読み手

ここでの自立とは、「これまでの経験、学んだことを生かす」こと。

本文を読んだとき、おもしろいだけではなく疑問を浮かべたり、これまで出会った教材と比較したりできる読み手を育てられる授業作り⇒考えのズレから対話の質を高める。

本文に反応して、関連付け、立ち止まれる読み手を育てることで、多様な考えを生み出す姿が期待できる。